

【編集・発行】富山県スポーツ推進委員協議会

【発行日】令和6年3月31日

事務局／富山市新総曲輪1-7 富山県生活環境文化部スポーツ振興課 TEL：076-444-3461 広報部／富山地区

協議会HP／<http://www.toyama.sports-suishin.jp/>

『ウェルビーイング』の向上を目指して

富山県スポーツ推進委員協議会 会長 廣瀬孝作



スポーツ推進委員の皆様には、日頃から地域のスポーツ推進役としてご活躍いただいておりますことに感謝申し上げます。

今年度、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが、第5類へと移行され、本協議会のすべての行事が通常通り行える状態となりました。

その中で7月に福井県敦賀市で開催されました北陸地区スポーツ推進委員研修会には、本県から115名の参加があり、「生涯スポーツで未来を考え、地域を豊かに。」のテーマで、スポーツ推進委員の果たすべき新たな役割や活動の方向性について研修してまいりました。また、11月に青森県青森市で開催されました全国スポーツ推進委員研究協議会青森大会には、遠方にもかかわらず本県から86名の参加があり、「スポーツで煌めく笑顔のために」と題して、スポーツ推進委員の目指す方向や地域スポーツの課題について研究協議し、活発な意見交換が行われました。

本県スポーツ推進委員協議会でも、様々な研修会を開催しております。私たちスポーツ推進委員は、県民

の誰もがいつまでもスポーツに親しむことができる「心豊かなスポーツライフ」の実現を目指し、地域スポーツ振興の推進役・コーディネーターとして、学んだ知識や経験を活動の中で活かしながら、資質の向上を図るために、研修会の内容を吟味し改善を図っていく必要があります。

一人ひとりが様々な人や社会とのつながりの中、日々“自分らしく”生きていることに満足し、心豊かに、幸せをずっと実感できる『ウェルビーイング』の向上のため取り組んでいきたいと思っております。スポーツへの取り組み方は、十人十色それぞれありますが、スポーツには健康づくりという側面だけでなく、スポーツを軸としたコミュニティの中で人と触れ合い、人の心に楽しみや喜びをもたらす見えない力があります。そのスポーツが持つ見えない力で、スポーツのポテンシャルを最大限引き出すことがウェルビーイングの向上につながると考えております。

私たちは、いま一度、日々の活動を見直して、誰もが気軽にスポーツを楽しめる環境づくりや機会の提供を行っていかうではありませんか。

第61回県スポーツ推進委員フェスタ〈事業部〉

9月3日（日）に529名参加のもと、第61回富山県スポーツ推進委員フェスタを開催しました。当日は非常に気温の高い中での大会となりましたが熱中症対策を施しながら、他郡市とスポーツを通じた交流を深めました。

朝日町文化体育センター（サンリーナ）では、ビーチボール競技とカローリング競技、ウォーキングフットボール競技が行われました。ビーチボール競技では、年齢制限のあるヒスイの部と制限のないフリーの部に分かれて競技を実施しました。どちらの部門でも白熱したラリーを展開し、朝日町発祥のスポーツを楽しみました。

カローリング競技では、各コートでナイスプレーに歓喜する姿や戦術を綿密に話し合う姿が見られ、だれもが気軽に楽しめるスポーツの魅力に触れました。

フェスタに初めて導入されたウォーキングフットボール競技では、「走れな

い」というルールに苦戦しながらも、各チームでゴールを目指して、協力して競技に取り組みました。

あさひヒスイ海岸パークゴルフ場では、パークゴルフ競技が行われ、各チームで声を掛け合いながらコース戦略を目指して技術を競いました。

今回のスポーツフェスタでは、朝日町で盛んなビーチボールをはじめ、多くの方々に親しみやすいスポーツが実施され、スポーツの楽しさや競い合う高揚感を味わうことができました。今後も他郡市の委員の皆さんとの交流等を通して、新たなスポーツの魅力を発見する機会になれば幸いです。



アウトドアスポーツ研修会〈研修部〉

9月23日(土・祝)砺波総合運動公園多目的競技場において、245名の参加の下、令和5年度富山県スポーツ推進委員アウトドアスポーツ研修会を開催しました。

研修内容のモルックは、フィンランドのカレリア地方に伝わるゲームを基に、1996年に開発されたスポーツであり、年齢や運動能力に拘わらず、誰もが楽しめるニュースポーツとして、今注目を集めています。この競技は、モルック(木製の投げる棒)で3.5m先にあるスキttl(木製のピン)を倒し、50点を先取したチームが勝ちとなります。今回の研修会では、体験することをメインと考え、公式のルールを一部変更したうえで、予選リーグと決勝リーグを実施しました。

最初は狙い通りにスキttlを倒すことができませんでしたが、競技内容やルールも簡単なため、参加者はすぐに競技に馴染むことができていたようでした。モルックは、うまくいかなくても楽しみながら、チーム内で声をかけ合うことでコミュニケーションが活発になっていく競技だということを感じました。

途中雨が降ったことで競技を中断する場面もありましたが、どのコートも大変盛り上がり、モルックを十二分に楽しんでいるように感じました。

本研修が、今後の各地区での活動の参考になれば幸いです。



県スポーツ推進委員研修会〈研修部〉

11月23日(木・祝)に富山県西部体育センターにおいて、199名の参加の下、令和5年度富山県スポーツ推進委員研修会を開催しました。

初めに表彰式が行われ、これまでの活動の功績が認められた66名の方が富山県スポーツ推進委員功労者表彰(10年表彰)を受賞されました。

講演会では、檀野俊氏(陸上十種競技選手・合同会社Gollirab代表)を講師にお迎えし、「命の使い方 ~自分の命に責任を持つということ~」と題して、アスリートキャリアでの気づきや闘病からの学び、これからの夢についてお話しいただきました。檀野氏の笑いを誘う巧みな話術と実体験を伴う言葉は、参加者の胸を熱くさせました。

実技研修では、ユニホックとヨガを体験しました。ユニホックは、RED OX OYABE HOCKEY CLUB(レッドオックスオヤベホッケークラブ)の沼田秀樹氏、茶木裕史氏、沼田玲温氏にご指導いただきました。ユニホックの道具を使った遊びから簡単な試合を行うまでの一連の指導の流れや要点などを体験させていただき、スポーツ推進委員の各地域での実践にすぐに活かせる内容でした。

ヨガは、島田真奈美氏(ヨガインストラクター)と森原優次氏(フィットネスインストラクター)にご指導いただきました。「健康につながるヨガ」というテーマの下、様々なヨガのポーズやコンビネーショントレーニングなどを行いました。動きと呼吸やリズムを合わせ、自分の体と対話しながら取り組むことの大切さを体感することができました。実践後の参加者には、充実感と適度な疲労感がありました。

本研修が今後の各地区での活動の参考になれば幸いです。



地区研修会紹介

富山地区

令和6年1月28日(日)上市町のつぎふれあい館2階コミュニティプラザにおいて、64名の参加の下、「意・気・力([い]と[き]と[ちから])太極拳で健康効果を得るためのポイント」という演題で、富山県武術太極拳連盟の馬渡明美氏による講演と実技の研修を実施しました。

太極拳は、身体に運動負荷を与えることで筋力や体力を増強するスポーツとは異なり、リラックスした状態で緩慢・柔和・沈静な運動を行います。研修で教わった3つのポイントを紹介します。「意」では、意識を足裏において動きを行うことで、足裏のツボへの刺激や下半身の筋力アップにつながり、全身の7割を占める筋肉を意識的に鍛えることで血流が良くなり体温の上昇にもつながることを学びました。「気」では、正しい呼吸法で腹式呼吸を行うことで、内臓機能や自律神経の改善につながることを学びました。「力」では、加齢に伴って進行する筋力低下が招く日常生活能力を失わないよう、膝を曲げて腰を緩めながら重心移動させることで、脚部の筋力の維持・増強につながることを学びました。

実技では、他に3名の講師にもご協力いただき、太極拳の動きを、速さや重心移動の方法など手本を参考に体験しました。初めて体験する委員もいる中で、講師の動きに合わせて動くことで太極拳ならではの筋肉の使い方などが分かり大変有意義な研修となりました。今後もスポーツ推進に役立つ研修会を開催していきたいと思っております。



高岡地区

令和6年1月21日(日)氷見市ふれあいスポーツセンターにおいて、「スポーツ指導について」のテーマのもと、日本体育大学の講師による講演と実技を実施の予定でしたが、令和6年能登半島地震の発生により中止となりました。

この度の災害において被災された皆様ならびご家族の皆様にご心よりお見舞い申し上げます。

皆様の安全と被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。



魚津地区

魚津地区では、令和5年7月30日(日)魚津桃山運動公園屋内グラウンドにおいて、「モルック」と「ウォーキングフットボール」の実践研修を実施しました。

モルックでは、ローカルルールを適用し、3回連続でミスすると「失格」ではなく、「1回休み」とすることで、レクリエーションの要素を強くしました。また、フィールドによってモルックの転がり方やスキットの散らばり方が変わってきます。今回は、人工芝だったため散らばりが大きく、ゲームの進行が早い印象を受けました。芝生や砂地等、様々なフィールドで行うことができるモルック。フィールドをよむこともモルックの魅力だと感じました。

ウォーキングフットボールでは、「走ってはいけない」というルールに戸惑いながらも、ボールのスピードやポジショニングに気を配りながらプレーする姿が見られました。ルールの工夫としては、ゴールをコーンと紅白棒にすることで、強いシュートではなく、パスやコンビネーションを重視することを狙いました。丁寧にパスをつなぐことで、サッカー経験を問わず誰もが楽しめるゲームとなりました。

2種目行った研修会でしたが、ローテーションでどちらの競技も体験できるものとし、ローカルルールの確認や各市町の交流を重視して実施しました。今後も誰もが楽しめ、親しみやすい競技を提案できる研修会を目指していきたいと思えます。



高岡市スポーツ推進委員協議会
副会長 越生百合子さん(高岡市)

砺波地区

令和6年1月20日(土)庄川体育センターにおいて、55名の参加の下、出町中学校3年生5名が総合的な学習の時間に考案した、ゆるスポーツ「バンバンやっちゃ」と「ウォーキングタグラグビー」の2種目を実施しました。

「バンバンやっちゃ」は“地域おこし”をテーマに、失われつつある富山弁を取り入れた、県民の老若男女を問わず、誰もが楽しめるゆるスポーツです。得点方法はポッチャと同様ですが、競技中にフラットリングにボールが入ると、富山弁の問題に正解すると加点される「バンバンちゃ〜んす」が与えられ、先に20点となったチームの勝利となります。

試合の告知のため会場に訪れたハンドボールチーム富山ドリームスの2名の選手も参加し、リーグ戦形式で試合を行いました。いずれのコートも審判は中学生が行い、厳しい??ジャッジのなか、大変盛り上がり、和気あいあいとした雰囲気です。「バンバンやっちゃ」を体験しました。終了後には、中学生のアイデア力とコミュニケーション能力の高さに感心する声が多く聞かれました。

「ウォーキングタグラグビー」では、砺波市ラグビーフットボール協会から2名の講師をお迎えし、リーグ戦形式で試合を行いました。講師のアドバイスの下、各チーム、試合を重ねるごとにトライの回数が増え、上達を感じられるとともに、チーム内での声かけも活発になり、白熱した展開も見られました。

本研修が、今後の各地区での活動の新たな提案になれば幸いです。



文部科学大臣表彰

文部科学大臣賞を受賞して

この度、文部科学大臣賞を受賞いたしました。これもひとえにこれまでご指導いただきました諸先輩方や共に活動してきた多くの仲間たちのお陰だと心から感謝申し上げます。

増え続けているご高齢の方は運動機能が低下し、また減り続けている子供たちは室内で遊ぶことが多く、外で思いっきり運動する機会が減っています。運動は人間にとって体と心の健康を維持するのにとても大切なものです。誰もが楽しめるスポーツ環境を提供することは重要で、私達スポーツ推進委員はいつもこのことを忘れずに活動したいと考えています。これからもスポーツ推進委員の一人として微力ながらお手伝いさせていただきたいと思っております。



高岡市スポーツ推進委員協議会
副会長 越生百合子さん(高岡市)

優良団体表彰

この度、朝日町スポーツ推進委員協議会が、全国スポーツ推進委員連合より優良団体表彰を賜りましたことは、大変光栄であり、ありがたく存じます。

当協議会は、町スポーツ推進委員相互の協力のもと、より多くの町民の皆さんにスポーツに取り組んで親しんでいただけるよう、諸活動に取り組んできました。

今回の受賞は、これまでの当協議会の活動が価値あるものと認めていただいた結果と受け止めております。

今後も、当協議会は、活動の一層の充実に努め、町民の皆さんの豊かなスポーツライフの実現に寄与できる団体であり続けたいと思っております。



朝日町スポーツ推進委員協議会
会長 水嶋美津子さん(朝日町)

■全国スポーツ推進委員連合表彰

赤池 伸彦（南砺市） 北田 悦子（高岡市）

■30年勤続スポーツ推進委員（8名）

中野 悦子（入善町） 武部真由美（富山市）
 安田 幸之（氷見市） 大橋喜美子（高岡市）
 秋濃 作二（富山市） 松井紀代美（上市町）
 砂田 正（富山市） 杉岡 毅（射水市）

■賛助会感謝状（2名）

山田 純一（砺波市） 新田 敏雄（朝日町）

■中ブロックスポーツ推進委員連絡協議会表彰（4名）

清水 正美（射水市） 浦田 孝志（滑川市）
 飯田富士子（入善町） 立浪 由美（高岡市）

■北陸地区スポーツ推進委員協議会表彰（10名）

原田 悦子（氷見市） 飛世 一美（魚津市）
 高島 淳心（砺波市） 坂石富美子（富山市）
 大嶋 誠司（富山市） 高見要宇子（舟橋村）
 今井 直美（南砺市） 福村 勝美（射水市）
 中井由美子（高岡市） 松木 豊（黒部市）

スポーツ推進委員の活動意識に関するアンケート 〈活躍推進部〉

コロナ禍が明け、各地域で様々なスポーツイベントが復活するなど、活気が戻ってきたことでスポーツ推進委員の活躍の場も増えてきています。今後益々の活躍が期待されるスポーツ推進委員の活動意識について調査することで、スポーツ推進委員がやりがいと達成感を味わえるように活動を工夫していきたいと思えます。〈Googleフォームにて回答：回答率40.7%（461名/1,134名）〉

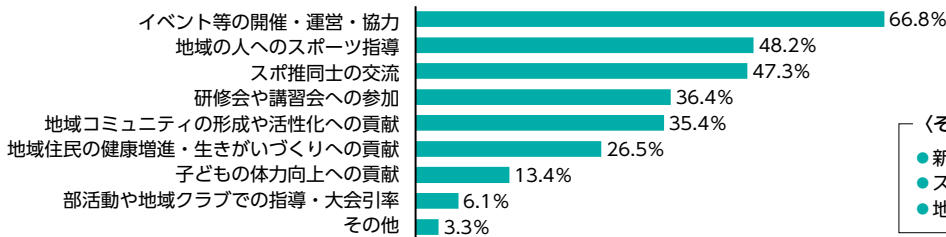
1 スポーツ推進委員になったきっかけ

- 自ら進んで（公募への応募含む） 2.8%
- 推薦・依頼 89.6%
- その他 7.6%

2 スポーツ推進委員にやりがいを感じているか

- とても感じている 13.0%
- まあまあ感じている 71.1%
- あまり感じていない 13.4%
- 感じていない 2.5%

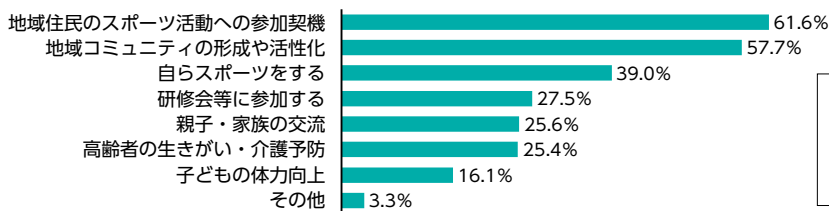
3 スポーツ推進委員として何にやりがいを感じているか（複数回答可）



〈その他の意見〉

- 新しいスポーツに出会えること。
- スポ推同士や地域住民と交流できること。
- 地域貢献していることを実感できること。

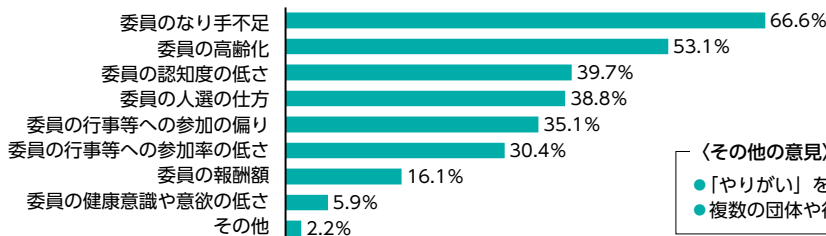
4 スポーツ推進委員として活動する際に心がけていること（複数回答可）



〈その他の意見〉

- 地域の人に喜んでもらえること、楽しんでもらえること。
- 人との交流を促進すること。
- できる限り企画に参加すること。

5 スポーツ推進委員として課題に感じていること（複数回答可）



〈その他の意見〉

- 「やりがい」を感じられるような事業展開が少ない。
- 複数の団体や役職を兼ねている人が多く余裕がない。

6 スポーツ推進委員やスポーツ推進委員協議会に関する意見や提案など（自由記述）

【担い手不足・やりがい創出】

- スポ推の事業やスポ推についてSNSを利用して認知度を上げる。

【委員・組織づくり】

- 委員の参加率や負担に偏りが生じている。若い世代も大事だが、参加率の向上を見込める退職世代の登用も大事にするとよい。
- ユニフォームの更新時期や市・個人の負担について考える必要がある。

【事業について】

- 委員が複数の団体に所属していることが多いため、事業内容の重複や熱量の低い企画や運営のサポート業務が多く「やりがい」につながらない。